

情報共有
(1枚)

非管理メモ

10/30 11/0 11/2

東京電力株式会社

柳原 公明

暫定版

NISA班 ← プラス対応

プラント状況 (本店レク) 議事メモ

日時：平成 23 年 10 月 30 日 (日) 11:00~11:15
場所：東京電力本館 101 会議室
先方：記者約 10 名 (カメラ 2 台)
当方：広報部

配布資料：
・なし

からプラント状況、協力企業作業員の負傷に関して説明。

質疑：

Q. 2号機のガス管理システムにおける水素濃度の見通しは。

A. 水素濃度は昨日で 2.3%であったが、本日 10 時現在で 2.6%になっており、上昇傾向は緩やかになっている。また、その他のパラメータについても有意な変動は見られないため、引き続き状況を注視していきたいと考えている。

Q. 水素濃度の上昇傾向が続き、可燃限界である 4%に近づいていった場合はどのように対応するのか。

A. 上昇傾向は緩和しており、その他のパラメータについても特段異常は見られないことから、引き続き状況を注視しながら状況に応じて対応していきたい。

以上

情報共有

(3枚)

非管理メモ

10/30 18:40

東京電力(株)原子力立地 会議室

中野 佐藤

暫定版

NIS 到主 プレス対応心付

プラント状況 (本店レク) 議事メモ

日時:平成 23 年 10 月 30 日 (日) 18:00~18:40

場所:東京電力本館 3 階大会議室

先方:記者約 20 名 (カメラ 3 台)

当方:原子力・立地本部

原子力設備管理部

原子力運営管理部

広報部

配布資料:

- ・ 福島第一原子力発電所の状況
- ・ 福島第一原子力発電所敷地内における空気中の放射性物質の核種分析の結果について (第二百十九報)
- ・ 福島第一原子力発電所付近の海水からの放射性物質の検出について (第二百十二報)
- ・ 福島第一原子力発電所取水口付近で採取した海水中に含まれる放射性物質の核種分析結果について (10 月 29 日採取分)
- ・ 集中廃棄物処理施設周辺 サブドレン水核種分析結果

よりプラント状況、配付資料に関して説明。

質疑:

Q. 2号機の格納容器ガス管理システムから排出された排気ガス中における水素濃度が上昇した原因について教えていただきたい。

A. ガス管理システムの運転開始以前は、格納容器内に窒素を封入し水素を押し出すのみであったが、現在はガス管理システムで格納容器内の空気を吸引しているため、水素も同時に吸い取り、濃度が上がってしまった事が考えられる。詳細については現在調査中。窒素と酸素がある程度の割合になると爆発する恐れがあるが、現状の水素濃度が危険な値だとは考えていない。

Q. 封入量を 21m³/h に増加するのはいつか。

A. 本日 18 時 10 分に増加した。

Q. 窒素封入量は段階的に上げていくのか。

A. 状況を見つつ上げていく予定である。

Q. 格納容器内の水素濃度を従来 1%程度と考えていたが、思いの外多かったという事か。

A. 格納容器内は複雑な構造となっており全体の水素濃度が均一になっている訳ではない。ガス管理システムで格納容器内の空気を吸引している以上、多少水素濃度が上がる事も想定範囲内かと思っている。水素濃度はそこまで高濃度にはなっていない上、

酸素濃度も低く、着火源もないので問題無いかと思っている。

Q. 4%を超えるような場所が部分的にでもあるのは危険だと思うが、東京電力としての見解は。

A. 水素濃度は留意すべき事項だが、4%を超えるとすぐに爆発をする訳ではなく、酸素濃度や着火源の有無という要素もある。窒素を封入する事で格納容器内の圧力は保たれており、外部から酸素が入る原因はない上に、着火源は無いため水素爆発の可能性は低いと考えている。ただし、水素爆発のリスクを低減するために水素濃度は低い値で管理したいと考えており、再度窒素封入量の増加を決定した。

Q. 配管が壊れて酸素が入り込む等の危険性もあると思うが、リスクヘッジはどのように考えているのか。

A. 発災当初は、格納容器を急激に冷やすことで水蒸気が凝縮し、格納容器内の圧力が低くなって酸素が入り込む可能性があったが、現在では、窒素を封入する事である程度正圧が保たれており、外から酸素が入り込む環境は改善されていると思う。

Q. 今回、窒素封入量を $21 \text{ m}^3/\text{h}$ とした根拠は。

A. 明確な根拠は無いが、ガス管理システムにより $16 \text{ m}^3/\text{h}$ でガスが排気されている中、前回 $16.5 \text{ m}^3/\text{h}$ に封入量を上げた事により、水素濃度の上昇率が抑制されたが、今回はさらに上回る量で窒素封入する事とし、 $21 \text{ m}^3/\text{h}$ としたもの。

Q. 万が一、水素濃度が4%を超えた場合の対応は検討しているのか。

A. 格納容器内で爆発を起こさない為に、適宜窒素封入量を上げる予定。 $21 \text{ m}^3/\text{h}$ に上げた後は、しばらく状況を監視してまいりたい。

Q. 原発の稼働を住民投票で決める動きがある。電力会社としてどのように捉えているのか。東京都で住民投票となった場合、都民の支持を得られると考えているか。

A. 一般論として、また私見を含めてお話しすると、エネルギー・国防・外交については、国が国民の生活のために方針を決め、その方針に基づいて遂行するものと考えている。様々な方が様々な意見をお持ちになっていることを十分承知しているが、原子力政策大綱の見直し等、国による検討が進められており、定められた方針に従って電力会社は対応していくものと考えている。一方、当社においては、福島事故の当事者として、それにきちんと対応することがまず第一だと考えている。

Q. 福島第一原子力発電所の作業員のメンタル面での相談の内訳や概要を教えてください。

A. 個別の相談事項についてはご容赦いただきたい。7～9月の合計として、福島第一原子力発電所で89の方がカウンセリングを受けている。また、福島第二原子力発電所で59人、合計で145の方が受けている。8月は多かったが、7・9月はそれよりも少なかった。相談内容としては作業環境、生活環境等の悩みであり、トータルで対処していく話と考えていることから、今後、発電所の収束に向けて検討をしていくところ。

Q. 10月12日の会見では、7・8月でのべ103人とのことだったが、数値としての整合性はどうか。

A. 9月は42人であることから、数字としては合っているかと思う。

Q. 安全推進連絡会で検討を行うのか。

A. 安全推進連絡会は当社と元請けの連絡会であり、直接その場にかけることはない。
当社のしかるべき部署で検討をしていくことになる。

Q. 東京電力の海洋での放射性物質の調査ポイントについては、均等に面を押さえている状況だと考えているが、海の流れをみて濃い濃度のポイントを選択するなどのやり方もあるのではないか。

A. 海洋・大気を含め、文部科学省と相談しながら測定点を選定している。大気中の放射性物質は日射量、風速等で拡散について評価しているが、海洋については、通常運転時において、循環水ポンプで希釈された濃度で評価を行っており、海洋での拡散による評価を行っていないことから、質問のご主旨に添えるような回答は難しい。

以上